

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第3回: インドの戦略的転換: 欧州との関係強化へ舵

2021年5月27日配信

【ポイント】

- 5月最初にインドのモディ首相はジョンソン英首相、EU首脳と相次いでオンライン首脳会談。
- これは、対欧関係強化というインドの戦略的転換を意味。その背景には中国のもたらす挑戦の深刻化。
- これは日本にとってもプラスな動き。

【本文】

- インドは伝統的に非同盟・反植民地主義だが、冷戦後立場を変化。
 - ・米国との関係先行。今や「クオッド」=米印日豪の枠組みも定着。
 - ・一方、対欧州関係はこれまで後れ。特に英国と関係は旧宗主国でもあり微妙。
- インドは、中国の挑戦の深刻化も踏まえて、モディ首相就任後の数年前から戦略的方向転換の一環として英、EUとの関係改善を模索。
 - ・インドの対外関係現状認識=以下のジャイシャンカル外相発言
「インドは、アメリカに関与し(engage)、中国に対処し(manage)、欧州との関係を開拓し(cultivate)、ロシアを安心させ(reassure)、日本を参加させていく(bring Japan into play)。」
- 5月初めに行われたインド・英国、インド・EUサミットはその一歩
 - ・5月4日; 印英首脳会談
 - 今後の印英関係進展の枠組みとなる「2030ロードマップ」を採択
 - 自由貿易協定交渉加速化に合意
 - インドからの移民・移動問題解決の合意に署名。
 - ・5月8日; 印EU+EU各国首脳会談
 - 貿易、気候変動、コロナ対策等幅広い分野での協力強化に関する共同声明発表
 - 長年停滞していた貿易自由化交渉の再開に合意

■これは、日本の「インド太平洋戦略」にとっても大きな意味。

・日本のシーレーンの自由と安全のために重要な欧州の協力強化の前提を提供

東・南シナ海からインド洋、湾岸に及ぶ日本の死活的シーレーンの自由で安全な航行維持には、米国、インドとの連携に加え、特にインド洋西側の安全のために欧州諸国の協力が必要。

特に、南太平洋に自国領を持ち毎年軍艦を送るフランス、湾岸に拠点(バハレーン)を持ちブレクジット後の影響力維持を目指す英国。

そのためには、インドの納得とインド・欧州関係の強化が必要。

・貿易関係緊密化をエンジンとしたインド経済成長加速化を期待

伝統的にインド経済に占める対外貿易の割合は極めて低い。

RCEPから当面脱退したインドが英・EUとの貿易自由化を進めることができれば、インド経済成長の更なるエンジンとなり、「強いインド」を必要とする日本にとってプラス。

(以上)

りそな総合研究所 顧問 石井正文

問い合わせ先:りそな総合研究所 アジア室 石橋

メールアドレス: shuzo.a.ishibashi@rri.co.jp